

令和7年度第4回千代田区文化芸術プラン推進委員会 議事録

■日 時：令和7年10月31日（金）14時30分～15時35分

■会 場：千代田区役所6階 特別会議室

■委 員：委員長 星野 泉

委 員 山崎 鯛介（欠席）／田中 晴子／新井 巍

阿部 俊裕／マライ メントライン

中田 治子（地域振興部文化スポーツ担当部長）

■事務局：地域振興部文化振興課長 武笠 真由美

地域振興部文化振興課文化振興係職員（2名）

議事次第

1 開会挨拶

2 議題

（1）千代田区文化芸術プラン（第5次）の策定について

（2）今後のスケジュールについて

3 その他

【配付資料】

資料1 千代田区文化芸術プラン推進委員会 委員名簿

資料2 千代田区文化芸術プラン（第5次）たたき案

（参考）千代田区文化芸術プラン（第5次）策定スケジュール

（参考）千代田区文化芸術プラン（第4次）

（参考）令和7年第2回推進委員会議事録

委員長

令和7年度第4回千代田区文化芸術プラン推進委員会を開会いたします。委員の皆様には大変お忙しい中、ご出席誠にありがとうございます。

本日、山崎委員は都合により欠席の連絡を頂いています。本会の終了時間は 16 時頃を予定しておりますのでご協力お願ひいたします。

始めに、配布資料の確認をさせて頂きます。事務局宜しくお願ひいたします。

武笠課長

本日の配布資料でございますが、本日の次第と、資料1としまして千代田区文化芸術プラン推進委員会の委員名簿、資料2としまして第5次のプランのたたき案でございます。それから参考としまして、第5次プランの策定スケジュール、同じく参考として第4次の文芸プランをお手元に用意させて頂いています。第4次プランにつきましては、次回以降も同じものを使用するため、委員会終了後は机の上に置いたままにしていただければと思います。それともう1つ参考としまして、前回9月の第3回委員会の議事録をお付けしています。以上6点でございますが、過不足はございませんでしょうか。資料に過不足ないようでしたら次第に基づいて進行したく存じます。星野委員長よろしくお願ひいたします。

委員長

それでは議題に移らせて頂きます。議題は千代田区文化芸術プラン（第5次）の策定についてということで、事務局からの説明をお願いいたします。

武笠課長

それでは資料2について説明いたします。こちら第5次プランのたたき案となっております。本日の会で最終的なご意見を頂きまして、素案として確定させていくことにしたいと考えています。お手元に1枚ものの禁則集という紙をお付けしているかと思います。こちらはプラン策定時の文章を作成するにあたって、このルールで書いていますという一覧となっています。ひらがなの部分とか漢字の部分について、こういったルールで記載しておりますのでご了承くださいますようお願ひいたします。

それでは第5次プランの更新内容についてご説明をさせていただきます。まず表紙をおめくりいただきますと「はじめに」という部分がございます。この部分は前回まで更新させておりませんでしたけれども、今回中段以降の部分について改定をしております。書き振りが現在の社会情勢などに合わせて変更しているとこ

ろですので、ご覧いただきましてご意見ございましたらお願ひいたします。その他目次につきましてはページを合わせるような形で更新を行っております。もう1枚おめくりいただきまして、1頁から第1章が始まります。第1章から第2章につきましては9月19日までの委員会のご意見と、関係所管に事業等について確認いただいているところであります。それらの意見を踏まえて更新を行っているところでございます。

13頁からの第3章につきましては、前回改めたものを見て頂きましたけれども、14頁・15頁の施策体系の主な事業について今回変更したところがございますのでお伝えいたします。まず施策5「多様な主体との連携」の15頁のところで、区内民間文化施設との連携というところが今回変更して入っています。前回は区内大使館との連携だったのですけれども、主な事業として何を第4章以降記載していくかということとの整合を取りまして、区内民間文化施設との連携ということに変更させていただいております。それから施策6（仮称）子ども1日書店長というものがございます。こちら前回はビブリオバトル大会ということで載せさせていただいていたのですが、子どもが自分のお勧めの本を紹介しながら実際に書店さんと連携して本屋の書店長を体験できるような企画はどうだろうかと考えているものであります。こちら書店さんへの確認が取れたらというところがございますので、この後パブリックコメントを年明けに予定しておりますけれども、それまでの間に書店さんと調整をして、その調整の内容によって事業名及び事業の内容に変更が生じる可能性があります事をご了解いただければと思います。それから施策8の一番下の主な事業の国際交流協力ボランティアバンクの活用とございます。前回までは国際交流ボランティアの活用という記載となっていたのですが、所管課の方から名称を正式名称で記載するよう訂正がございましたので、改めさせて頂いております。体系図の変更点については以上でございます。

もう1枚おめくり頂いた16頁からが、第4章施策の展開として各事業などについて触れているところになります。第4章につきましてはそれぞれの事業について新規・拡充の事業についてはそのマークを付けております。また、それぞれの事業内容について所管課から内容の更新があったところについてはそれを反映させた修正を行っております。事業の名称や赤字にしている主な事業は体系図と合わせて記載しております。写真やイラストにつきましても今回新しいものに差し替えておりますのでご覧いただければと思います。

29頁からは前回芸術拠点施設の今後の取組みということで文章

と写真を更新しております。前回更新が間に合っていなかった部分ですので、今回ご覧いただいてご意見ございましたらお願ひいたします。

33 頁からの第5章については、全面的に更新をかけております。第4次プランは計画の推進という部分では委員の責務や民間団体の責務という書き方をしていたのですけれども、今回は区の他の計画を参考に区民や民間団体等との関係を示しつつ、文芸プラン推進委員会とやり取りしながら計画を推進していくということを図示しております。34 頁の推進委員会の委員名簿につきましても更新しておりますので、ご自分のお名前などご確認いただけたらと思います。

35 頁の策定経過につきましても更新を行っております。

最後に条例が記載してあるのは第4次プランまでと同様でございます。

第5次プランのたたき案のご説明としましては以上となります。ご意見等ございましたらよろしくお願ひ致します。

委員長

後半の図が入ったということで、一応より本格的なものとなつてしまひました。ご意見ご質問等ございますでしょうか。ありましたらよろしくお願ひ致します。

子ども1日書店長のところは、パブリックコメントでご意見を伺う前に差し替えになるかもしれないということですか。

武笠課長

今の時点では、子どもたちに自分のお勧めする本を10冊程度持ち寄って頂いて、実際の書店さんにその本を用意して頂いて、子どもたちが紹介しながらその本を売るという取組みと、あわせて前回の委員会のなかで謎解き、街歩きというワードが出てきたので、謎解きラリーと組み合わせて実施できないかと考えているところです。書店さんとの調整次第でこちらが区が考えていることが実施できるようでしたら、今申し上げたような形で実施したいと思っておりますけれども、書店さんが難しいということであれば謎解きラリー、謎解き本を子どもたちが実際に参加して作るような取り組みから謎解きラリーを展開するような取り組みに変更したいという風に考えています。

委員長

施策体系のところは、第4次の場合はそれぞれ無理やりにかもしれないが○を付けて文化芸術拠点施設と結び付けていたけれど、今回はそれを外したというような感じなのでしょうか。

武笠課長

今回は主な事業に沿った形で○をつけさせて頂いております。た

だし、文化振興課の事業でないものですとか、区内の民間施設と連携するものにつきましては、この拠点施設に紐付かないものになりますので、その部分については○はついておりません。

委員長 元々無理に○をつけていたような感じがあったので、それで良いと思います。

写真が文言と合致しているかご確認頂きたいが、いかがでしょうか。

メントライン委員 千代田アートスクエアは何年にオープン予定でしょうか。

武笠課長 現時点では令和9年度を予定しています。

メントライン委員 今は令和7年度で2年後のオープンになる。この○がついている状態だと、いま存在している（オープンしている）様に見える。令和9年度以降のオープン予定というような表記や、あるいは昼休みコンサートの様に別の場所でやっているものについてはそのように表記するなどの配慮が必要ではないでしょうか。ちなみにいま昼休みコンサートは実施できているのでしょうか。

武笠課長 昼休みコンサートは、今は区役所1階の区民ホールで行っています。ちよだアートスクエアができれば、ちよだアートスクエアでも出来るのではないかと考え○を付けています。地域と連携した展示やイベントについても、いまは日比谷図書文化館や、区役所の上の階の千代田図書館などで行っているのですが、ちよだアートスクエアが出来ればここで行えるということで、計画期間中にできそうなものについては○をつけさせていただいている。

メントライン委員 今、その施設があるかのように見えるのが何となく気にはなります。別の施設でやってはいるのですが。気になる。

武笠課長 5年間の計画ということなので、5年間のうちにちよだアートスクエアが出来ることを見越して○を付けています。

委員長 「何年に出来る（令和〇〇年）」という表記を入れるかどうかですね。
内幸町ホールもそのようにしなくてはいけなくなるが。

武笠課長 できれば、その様に書けると一番良いと私たちも思っていますが、現在、工事がなかなか厳しい状況でして、スケジュール通りに進むかど

うか、という点が何とも言えないところがあります。

メントライン委員 「開館次第、開館後」というような表記になってくるのでしょうか。

委員長 「予定」というような表記を入れなければいけないですね。

武笠課長 あくまで現時点の予定ですが、当方としてはアートスクエアであれば「令和9年度」というように記載をしたいが、難しいという事情があります。

新井委員 ちょっと前にもお話ししたことだと思いますが、アートスクエアとか内幸町ホールとか九段生涯学習館など、この5年間の間に建て替えがあるということについて触れなくてもいいのでしょうか。要するに代替施設でフォローするという話しじは伺っているが、具体的に全然触れていないので、この5年という期間の代替策について何らかの形で触れておいた方が良いのではないのでしょうか。「いつから」ということを明確に書けないのは確かに難しいところではありますが。例えば、カザルスホールは交渉中というような話もあり、これもかなり流動的な話ではあり、是非千代田区の方に移管して欲しいとは思います。そのような中で今の拠点の施設が、しかも4つしかない施設のうち3つがそうなっているというのを何らかの形で触れた方が良い。本来の文化芸術プランの形にはそぐわないかもしれないが、重要だと思います。状況を全然知らない人が「施設を無くしてしまったのか」と誤認するのではないかと思う。（解体中等の状態が分かるような表記としていれば）

武笠課長 原稿の6頁・7頁に、文化芸術拠点施設ごとの取組みという箇所がございます。こちらで現時点の改修の予定等についても触れさせていただいています。今後に向けた課題として固定の施設に縛られずに事業を展開していく必要があるということを記載させて頂いています。

委員長 生涯学習館も供用を終了するのでしょうか。

武笠課長 終了する、というのではなく、再開発区域の中に入っています、再開発の範囲内の施設についても検討していく必要があるということです。

委員長 いま現在も再開発が動いているということでしょうか。

武笠課長 その通りです。

委員長 そうすると、これは近い将来に再開発になりそうな感じなのでしょうか。

武笠課長 そうですね。まだ、再開発組合の設立前ですので、具体的なことはあまり申し上げられないのですが、検討されているということではございます。

委員長 では来年、再来年ということにはならないでしょうか。

武笠課長 組合を設立して、その後色々あってということになると思います。

新井委員 計画ではかなり高層なビルになりそうなので、そうするとまず1つは解体してその上に何十階かの高層ビルができるということなので、相當に時間がかかりそうな気がしますね。

武笠課長 準備組合の方はもっと早いスケジュールを引いているようですが、具体的にどうするかというのは今の時点では何とも言えないところです。

委員長 7頁の「今後に向けた課題」で「老朽化に伴う改修工事のため一時休館していますが、両施設の休館中も、この施設で行われていた取組を引継ぎ、固定の施設に縛られずに事業を展開していく必要があります。」という記載をエクスキューズとして記載していますね。

武笠課長 実際にちよだアートスクエアなどはいま閉鎖していますけれども、区民館などを使いまして事業を実施しているところではございます。これまでアートスクエアにしても秋葉原地域にあるということで神田寄りという側面が強かったですが、施設に縛られないことで麹町小の図工室を使った取組などもさせていただいて、逆に取組みが広がっている所もございます。

メントライン委員 今後に向けた課題、ということが書かれていて、今後の取組みについては第4章に書かれているのですが、逆に各施設の役割、今後考える役割分担は15頁に記載されています、というようなことは書かれていてもいいかもしれない。

武笠課長

文化芸術拠点施設の今後の取組みについては 29 頁以降で改めて記載をしています。第3章までは第4次までの範囲を振り返って、そこから今後への課題という形で書かせて頂いていて、令和8年度以降のこの計画期間中の展開については第4章で施設も含めて記載しているという作りになっています。

新井委員

15 頁の中に拠点施設という中にこの4つだけでなく、もう1つ欄を増やして「その他」という欄を作った方が、良いのでは、「4つだけか」と思われるのではないか。例えば昼休みコンサートは区民ホールでやっているので、そういうのも含めて「ここだけでしかやらない」というのではなくて、ここでもやりますよ、というようなことを書いておいた方がいいのではないかと思います。

委員長

まあコンサートも役所でやっているわけなので、当然ながら役所そのものも結構な拠点ですよね。そうすると「その他」がいいのですかね。

新井委員

その他というのはちょっと雑な表記な気もしますが。

武笠課長

区立て文化芸術のために持っている施設ということでこの4施設を入れております。

新井委員

まあ本来からすると、この4つ以外にもいろいろな場所でやってほしいわけです。独自のところで。

武笠課長

それぞれの事業が、様々なところで展開されているというようなところについては、第4章の施策の展開のところで事業について記載する中で書かせて頂いている部分もございます。「その他」のような形でもう1列増やしていくのか、というところは検討させていただきます。

委員長

第4次プランの時に、同じ施策体系が 14 頁に載っていたが、ここに「新規」との表記がある。これは何の意味合いで「新規」なのか。この第4次から掲載したもの、という意味合いなのか。

武笠課長

計画を作った翌年、この計画が始まる年から始まる事業、「新規事業」として行われるものについては、マークがついています。

委員長 文化芸術拠点施設の所にも「※新規」とあるが、これは何の新規なのか。

武笠課長 文化芸術拠点施設についての新規マークについては、第4次の策定時に改めてこの4施設を文化芸術拠点施設として位置づけたという経緯がありましたので、それで新規マークを付けています。

委員長 前の計画時にこの4列はあり、それ以前の計画にもあったような気がする。

武笠課長 第3次プランの体系図ですと、この施設に紐付くような記載がされておりませんでした。

委員長 第4次で初めて記載されたので、「新規」ということですね。

新井委員 「協力施設」とは何なのか。

武笠課長 民間の施設にもシネマセレクションなどにご協力頂いている施設もありますので、民間施設の連携は施策5の区内民間文化施設の連携というところに含めています。カザルスホールについて協議を進めていくというところについても、区内民間文化施設の連携ということで24頁に記載しています。

委員長 お気づきの点について、他にはよろしいでしょうか。

メントライン委員 気づいた点としては、とても読みやすくなったことですね。前に恐らくなかった箇所とおもいますが、12頁に書いてあるコラム（見出しの文言はまだ記載していない）など、事例が載っているのはとても良いと思いました。こういうプランを初めて読む区民の方が、「なるほど、こういうものと比較すれば良いのか」「他にはこういうものがあるのか」と参考になると思いました。あと、新しく追加した写真についても良いと思います。

委員長 まだ記載が入っていないのが、「コラム見出し」の文言、11頁のイラストになります。

新井委員 こんなことを行ってしまうとちゃぶ台返しになってしまふかもしけませんが、第3次、第4次と5年間隔できているので、もうちょっと目玉となるようなもの（イベント等）があつてもいいの

ではないかと思います。前の計画のほぼ踏襲という形になってしまって、言いづらいことではあるが小粒なプランになっています。世界に冠たる千代田区がこれぞと思って（制定した）文化芸術プランだぞ、と声高々に言えるものでは無いように感じてしまう。

今更新しいものを考える、というのはちょっと難しいかも知れないが、少なくとも6次になる前に千代田区ならではのものをお願いしたいと思います。具体的に何を、という訳ではないが、他の区に抜きんでて「こういうことをやっているよ」とアピールできるようなものが欲しい。一つ一つの計画は有意義なものだと思っているが、全体を通してみるとこじんまりとしているという感じがします。

武笠課長

区で実際に予算化してやっていけるという見込を持ったものを事業として具体的に書かせていただいております。

新井委員

ある面では、千代田区の文化に対するお金の出し方が少し足りないのではないかと常々思っています。

確か葛飾区か墨田区だったかと思うが、（予算）全体の何%を文化芸術に回すという話を以前聞いたので、千代田区にもそういう姿勢があるといいなと思うところがあります。正確な情報ではなくて申し訳ないのですけれども。

委員長

ありがとうございます。2つ3つ、イノベーションということで、次の機会にそういう意思を持って考えるということで。それから僕は文化芸術に関する仕事は千代田区だけなのですが、他の自治体で公共施設の再編みたいなことばかりをやっていて、そういう場合に老朽化という話になると、「どう壊しましょう」ということになり、それを住民の皆さんと一緒に何とか押しとどめるという仕事が多くて、そういう点から考えると千代田区はお金もある方で、「何とかそのまま」ということになっている。流れとしては、怒涛の様に少子化・人口減少で施設として押し込められているのを何とか押し返すみたいな仕事が多いので、そういう方向ではないので、特に文化芸術、図書館、体育館系は統合したいと考えている自治体が多い。学校はそう簡単に統廃合できないので、一番最後の方に（統廃合の対象に）なるが、図書館、体育館、公民館などは厳しい。何とかこれを発展させたい。先生のおっしゃるように目玉を考える必要があると思いますけれど。

武笠課長

事業として1つ1つは決して大きくないかもしれないですが

ど、例えば千代田区内の地域と連携して様々なことをやっていることは強みと思っております。施策2の「文化財企画展・文化財特別展」についてもそうですし、図書館でも地域と連携した展示ですとか地域の紹介を行っているところです。たとえば千代田図書館でしたら神保町と立地が近いので、神保町の古書店ですとか出版社の方と連携した本棚を作ったり、展示ですとか、街歩きのようなツアーを展開したりしております。昨年度は文科省より、モデル的な取り組みとして古書店との連携の部分が取り上げられておりますので、そこは千代田の誇れるところだと思っております。今回新規事業として載せております、アートスクエアでやろうとしているアーティストバンクですとかコミュニケーションの育成につきましても、これからのことではありますけれど展開が期待できると思っておりますので、委員のご意見等踏まえて、引き続き第5次で頑張っていきたいと思っています。

今回のプランにつきましては、委員の皆様よりご意見を頂いておりました「多様性」ですとか「交流」という部分も文章に入れ込んでいくことを考えて作っておりますので、それが今回第5次の目玉と考えられるのではと思っております。

委員長

それでは、現案としては、次に向けて少し大きなテーマを入れていくという期待を込めて、これでお認めいただくということでおろしいでしょうか。

各委員

良いと思います。

委員長

それでは、引き続きまして第2番目の議題、今後のスケジュールについてご説明をお願いします。

武笠課長

それでは、今後のスケジュールとして、右肩に「参考」とある資料（スケジュール案）をご覧ください。

本日、叩き台をご確認いただきまして、まだ一部調整中のところについては修正しまして、最終的な案の形で委員の皆様にご確認頂きたいと思います。その上で府内の会議体に諮り、12月初旬には素案を確定していきたいと思っているところです。そして年明け1月5日号（広報ちよだ）でパブリックコメントの募集をかけまして、1月26日まででご意見を頂く予定でございます。

2月にパブリックコメントを整理・分析して反映させた計画案を作成し、パブリックコメントの結果を公表するとともに議会にも報告いたしまして、計画を確定させていくということを考えています。

今年度の今後の推進委員会については、この後はメールでのご報告ですとか書面開催的なやり取りとなるかもしれません、最終的な案を固めていく中で誤字脱字なども含めてお気づきの点がありましたらご連絡頂ければと思いますので引き続きよろしくお願ひいたします。

説明は以上となります。委員長引き続きよろしくお願ひいたします。

委員長

はい。ありがとうございます。それでは何かご意見ご質問等ございますでしょうか。

新井委員

18 頁に「歴史散歩マップシリーズ発行」とあり、私どもの方で既に作っていますと申し上げた手前、実物をお持ちしました。部数の関係で委員の方の分だけになってしまいますが。

千代田区の番町麹町地区という狭いエリアでも、これだけの数の何らかの文化遺跡、歴史遺跡があるということを、これは私が作成したんですけれども、個人でこれくらい作れるわけですから、何とか区でももっと豪華なものをあって頂ければと思います。

或いは、千代田区全体で書籍にするというのも、神田地区でも恐らくこのような研究をされている方がいっぱいいらっしゃるので、そういうものを統合すればよいのではないか。かつて千代田まち辞典という、ムックみたいな形態で発行されたものがあって、私も中の一部を書かせて頂いたことがあるのですが、そういうものを、単発ではなくて 10 年に 1 回くらいの頻度で出して頂いても良いのかなという風に勝手な希望として思いました。

委員長

はい。ありがとうございます。これは確かに凄いですね。市ヶ谷、四谷界隈について書かれていますね。

新井委員

是非、お時間があれば歩いて頂いて、散歩道としても、距離、所要時間まで書かれていますので。

メントライン委員

前にもお訪ねしたのですが、8 頁にある「区民の意見」について、これをもって「何がどうなるのか」というメッセージがないのが気になります。今後の課題なのか、定期的にこの調査を行うので、次回調査までに課題を改善するのかどうかなど、或いはそうではなくて、問 36 の「参加したいと感じる文化芸術イベントがあればご記入ください」という問い合わせで、その他ご意見には具体的にどのような回答があったのか、今後は区民の方にイベントの提案を募集します、という趣旨でのコラムなのか、など。どのように解釈すればよいのか、色々と考えさせられてしまいます。掲

載していることについては、とても良いことだと思います。

武笠課長 単純に、世論調査の結果がこうでした、と淡々とご報告したものとなります。

メントライン委員 では、この世論調査についてはどのような理由でなされたものでしょうか。意見が読み取れるからそれでよい、というようなものでしょうか。

武笠課長 文章にももう少し工夫の余地があるのかもしれません。

新井委員 この調査をしたので、こういう（区民からの）意見があったので、こういう風に（施策を）しました、というものはないのですよね。そういう意味では、経緯を全然知らない人から見ると、何でこの調査結果が入っていて、全然施策の中身がそれにリンクしていないじゃないか、と言われそうな気もするので、それがちょっと心配ではありますね。

武笠課長 計画によっては、計画の策定前に実態調査のような調査を行うことがあるんですけれども、文芸プランについては区民世論調査のご意見を踏まえて、という形にしております。そのため、世論調査ではこうでした、という結果だけを載せているのですが、文章にもう少し改善の余地があるかもしれません。

中田委員 このような調査を踏まえての計画になりますので、情報発信の工夫ですとかそういうものに繋げていくという姿勢は必要かなとは思います。

委員長 多分、千代田区が提供しているような芸術イベントではなくて、漫画やアイドルの様に、自分からインターネットでアクセスするような情報には関心があるが、区からの情報には関心がない、という回答をするときに、どんな活動があるかわからない、時間に余裕がない、関心がない、面倒だから、特に理由はない、この調査は複数回答なのでどれがどれに被っているかわからないんですけど。何かやってるから行ってみよう、という感性は無くなっているのではないかね。テレビも見なくなってきたし、テレビや新聞は自分に関心のないところの情報も出てきますけど、SNS やインターネット系のものでは、ピンポイントにそこに行って、一回行くと大量のその界隈の情報がやってくるというスタイルなので。

メントライン委員 そういう界隈とどのようにアクセスしているかが分かれば、タイアップみたいなものもできるのではないかでしょうか。

委員長 なので、「宣伝をもっとたくさんしましょう」というようなやり方では難しいのでしょうか。昔だと多分そういう話しになっていたと思います。役所のホームページをもっと見やすくしましょう、とか。

メントライン委員 だから、こうします、という何かが行われるのか行われないのかが余計に気になります。あるいは、次の結果と比較して変化があったか否かなど。それだと情報発信の仕方が前の調査以降変わったのかどうかという点も関係してきますが。

委員長 区民世論調査って、年齢層はうまく無作為抽出できているのでしょうか。高齢者層に偏っている等の問題はなかったでしょうか。

中田委員 年代ごとの人口分布に合わせて、2,000 人くらいに調査票を郵送して、回答率は4割くらいですね。

委員長 回答者は高齢層に偏っていないですか？

中田委員 偏っているかもしれません。今年はインターネットでの回答も進めていて、それが増えているようです。千代田区の場合は、区報を全てのご家庭に戸別で配布していて、読まない人は読まないのですが、読んでくれている方は結構読んでくれているようです。以前は新聞折り込みだったのですが、なかなか厳しいということで、全戸配布になってからは、若干「読んでいます」「配られているのは知っています」という回答が増えているので、意外にアナログで、紙で丁寧に書いて出す、というのも1つ手なのかもしれませんですね。

武笠課長 一方で事業によっては、SNS を活用して発信するという面も増えています、広報にしても図書館の事業にしても YouTube で動画を公開したり、公式 LINE などで広報を発信するということは、第4次計画のころと比べて増えてきています。

委員長 そういう情報発信の仕掛けの方法はまた考えていく必要があるのでしょうね。

メントライン委員 ただ、このページについてはぜひ残して頂きたいと思います。

武笠課長 取ることはいたしませんが、文章にもう少し検討の余地があるのかについては確認いたします。

(田中委員到着)

委員長 一通りチェックを進めておりまして、今日の話としては、後ろの方のパートに写真が追加された、という点と、14~15 頁の区内民間文化施設との連携とか、子ども 1 日書店長、国際交流・協力ボランティアバンクの活用といったあたりが、文言や内容を変えたりして追加されたということです。前の方の部分は、基本的に今までの通りということです。

議論としては、4 つの施設のうち 2 つがリノベ中で、もう 1 つも今後予定していて、それらについて具体的にいつから使えるようになるか等を注釈しなくてよいのかという話もありますが、このあたりは今後工事が延期するという可能性もありますので、明確には書きづらいという側面もあります。5 年おきにプランを見直すという中で、その中では何とかなるだろうというような話になりますね。

また、8 頁のコラムで、区民がイベントに参加しない理由が書かれていて、これをどうやって引き寄せるかというところまでは説明がないが、それをどうやって入れるか、というところまでは大変そうなので、次回までに考えようという先送り的な内容になっています。

アートスクエアについては、映像関連なんかの取組みが増える方向性、ということで相違ないでしょうか。

武笠課長 そのとおりです。これまで絵画など、特に現代アート中心の展示が多かったのですけれども、より区民の皆様に利用していただけるようなスペースを作ったり、音楽ですとかダンスにも利用していただけるようなスペースを新たに作っています。

委員長 田中委員、何かご意見ござりますか

田中委員 やはり、施設がない間、区民の方がどういったところで代わりの体験を積めるかというところが見えるといいのかなと思います。ただ、それが単発であったり、それを引き受けたところが、終わった後どうするんだという問題が出てくるのかなとは思います。

あと、冊子に写真が入ると、華やかになってよいなと思います。

前回の委員会で、どういう企画をするかというところで、ちよだ文学賞というものは注目度が高かったので、それと同じ注目を浴びる企画はどうなったのかなという部分が気になつたので原稿を確認したのですが、どうなったのか把握できていないという状況です。

武笠課長

アートスクエアが閉まっている代わりに区内の小学校の図工室をお借りして子供が参加できるようなワークショップを実施したり、音楽の方も代替施設を区内でいくつかご案内しております、そこを使ったときに助成を出すような取り組みをやっています。

文学賞についてですけど、15 頁に「（仮称）子ども 1 日書店長」ということで入れさせて頂きまして、中身については 26 頁に記載しています。

前回の委員会でご意見を頂きました、子どもが本を持ち寄るような話と、謎解きラリーのお話を組み合わせまして、子どもが自分たちで紹介したい本を持ち寄って、その本を書店さんに協力頂いて、自分が本屋さんになって売るような体験ができるような取り組みと、謎解きラリーを同時に出来る取り組みで考えているところです。

田中委員

ちょうど今京王線沿線の「あの駅に願いを込めて」の冊子を参考に持ってきました。この真似にはならないようななかたちで、千代田区のオリジナルの形の巡りが出来ると文化と親しむきっかけになり良いと思います。本だけというのが残念ではありますけど。中国では絵巻にある最後の跋文を子供が読み上げて文化に楽しむという家族が結構いて、日本でも書道博物館などに行ったら行つたで、当時の首相らが見事な達筆で書を書いているというそういう専門の仕事の他にそういう文学なりを身につけて表現するっていうものがあった時代もあったということを最近感じるようになって、その基となるものは何だろうかというときに小さいときの体験なんだろうけれども、なかなか親が連れて行って何かをする余裕がなかったり、子どもも子どもでゲームとかを楽しむもの良いが、文化に親しんで自分オリジナルの教養を周囲に誇ることができるような教育に繋がればいいなと思っています。

なのでこの、お勧めの推しの本を探して、それを自ら勧めるという体験は良いなと思います。ただ協力する側が集まるかなということと、受け入れる側に余裕がなかったりしたら大変だから、上手くいくといいなという感じがしました。

武笠課長 書店さんのご協力をどこまでいただけるかによっては、謎解きラリーだけになる可能性もなきにしもあらずですけど、いまも神保町ブックフェスティバルのなかで一緒にやらせて頂いていて、そこで協力を得られると良いなと思っているところです。

田中委員 多様化している中で難しいですね。昔であれば楽しいことも少なかったのでそういうところに行つたのでしょうか。こうやって文化芸術プランが立っていくということは大事なことだと思います。謎解きとか、大人も参加したくなるようなものだと一緒に楽しめていいと思います。年齢層を絞るのではなく、一緒に参加できるのもいいかなと思います。

委員長 ありがとうございます。それでは、文言をもう一度チェックして頂いて、誤植等に気が付きましたら事務局にまた連絡して頂いて。これで最終プランの一歩手前くらいまで来ているのですけど、そうして頂きたいと思います。その他なにかご連絡はありますでしょうか。

武笠課長 お手元に「千代田ミューズ＆パークシールラリー」というシールラリーの台紙をお配りさせていただいております。ご覧いただくとともに 11 月 1 日から始まるシールラリーになっています。区内にある各ミュージアムと公園を巡って、集めたシールの数に応じて景品がもらえる仕組みになっておりますので、皆様もよろしければご参加いただければと思っております。

田中委員 こちら最初 LINE で計画されていたのが変更になったんですよね。

武笠課長 最初デジタルスタンプラーで計画していたんですけども、直前になって事業者のサーバーが海外にあることが判明しまして、セキュリティ上問題があるということで急遽アナログに変更いたしました。

委員長 デジタルの場合はそこに行くと「ポケモン Go」のような仕組みになったのですか？

武笠課長 QR コードを読み込んでいただいて、デジタルでのコインという形式でスタンプをゲットする方式だったのですが、紙のシールを入手する形になりました。

田中委員

施設によっては有料ゾーンで配布しているところもありますね。無料で入手できる施設を巡るだけでも楽しめると思います。シールがとても素敵な出来あがりで、各施設の外観や収蔵物をモチーフに丸い形状で作成されています。それを台紙に張っていくことで景品がもらえるという仕組みです。

委員長

その他よろしいでしょうか。

では、これを持ちまして令和7年度第4回千代田区文化芸術プラン推進委員会を終了させて頂きます。どうもありがとうございました。